

はじめに

文法問題といえば、イディオム、熟語、語法、構文をある程度知っていればできるものだと思っている受験生は多い。確かに、それも一理ある。しかし、それだけでは英語の力は身につかない。

例えば、次の問題を日本語に訳す場合はどうだろう。

We differ () our outlook on life.

意味も考えないで from を入れてしまうと、「私たちが our outlook on life (人生観) と違う」と直訳しかねない。differ「違う」といえば、Cats differ from tigers. という使い方をするのだと覚えているため、このような間違いが起こる。正しくは、「私たちは人生観という点で違う」つまり「私たちは人生観が違う」と訳す。大雑把であっても、ちゃんと意味を考えてから解答すれば、このような間違いは起こらない。

たとえ短文であっても、直訳ではなく、できるだけ意味が通る自然な日本語で解釈できるようにしたい。問題に自然な日本語が与えられている場合、その英文からその和訳が出てくるようにしてほしい。日本語からその英文、その英文から自然な日本語という作業をすることで、英文を自然な日本語に変換しながら読むこともできるだけでなく、与えられた日本語を英文にすること、英作文にも強くなるはずだ。

文法問題といえば、総じて空所完成問題、誤所指摘問題、整序作文などの形式をとっている。だから、どうしてもその問題を解くことが中心となり、その英文と自然な日本語の突き合わせをるところまで頭が回らない。目先の解答や点数にこだわり、意味をとり、深く考えることをしない。確かに入試の時はスピーディに解かなければならないから、じっくり考えることは難しいが、解き方、考え方、表現、内容の把握を学んでいる最中であることを自覚して、スピーディに処理するだけではなく、一問一問丁寧に英文と日本語の両方を学ぶ姿勢でありたい。自然な日本語を意識して問題に対峙してほしい。

ヴィトゲンシュタインは「言語ゲーム」の思想の中で、次のように述べている。「『言語ゲーム』という語は、ここでは、言語を話すことが人間の活動の一部である、あるいは、生活形式の一部であるということ強調すべきものである」「一つの言語を想像するということは、一つの生活形式を想像するということである」と。つまり、言語はそれ自体で意味が確定するものではなく、日常生活の中で言葉をゲームのようにやりとりする中で、その意味を確定していくということだ。一言で言えば、言語ゲームとは、「生活形式」である。言葉を話したり、書いたりすることは、一つの活動や生活形式の一部であるということだ。だから、生活そのものを文脈として正しく読まなければならない。具体的には、その言葉がやりとりされる状況をよく観察するということだ。言葉なんて字面だけ見れば、あるいは音だけ聞けば理解できるとってはならない。

例えば、夫婦の会話で「お〜いお茶」という声が聞こえたとき、それだけでは夫が「お茶を入れてくれ」と言っているのか、夫がお茶を入れて妻に「お茶が入ったよ」と言っ

いるのかわからない。「お茶を入れてくれ」だと思いついてはいけない。思い込みは誤解や誤読を招く。状況を考えることが大切なのだ。そうすれば、勉強の仕方も変わってくるだろう。自然な日本語と表現の言い換えを勉強の中心に据えてもらいたい。一つの表現だけでなく、表現を言い換えることにより、表現が豊かになり状況がつかみやすくなる。その結果、英文の解釈が深まり、英語の勉強がもっと楽しくなるはずだ。

本書の使い方

本書は「問題編」と「解答・解説編」に分かれている。まずは「問題」を1ページ分くらい解いてみて、それから「解答・解説編」で確認するというやり方をしてはどうだろうか。

全体的には、問題を解いた後に、必ず日本語と英文の突合せをしてほしい。英文から自然な日本語に訳せるように、また日本語からその英文にできるようにしたい。今まではおそらく問題を解いて答え合わせをし、解答・解説を読んで終わりだったかもしれないが、この問題集では、問題を解きながら、自然な日本語の訳し方や表現力を伸ばすような取り組み方をしてもらおう。

- ① 日本文が与えられた問題の場合、問題を解くことはもちろんのこと、その英文から日本語に訳せるようにしたい。ただ答えを出すだけでなく、その英語からその日本語を導けるようにしてもらいたい。
- ② 日本文が与えられていない場合、まず解答を出すのはもちろんであるが、解答・解説で確認作業をする際に、その英文がどのような日本語になっているのかをしっかりとチェックしたい。
- ③ 2連立で同じ意味になる問題の場合、問題の解答を出した後、解答・解説を確認しただけで終わらないようにしましょう。2つの英文がどんな状況で使われているのか、また、どんな和訳が与えられているのか分析してもらいたい。解答となる言葉がどのように使われるのかを学ぶことで、現代文のみならず英文の読解力がつき、英作文や小論文作成にも役に立つ。
- ④ 2連立で共通語を入れる問題の場合、解答するには多義語の知識が必要となる。一つの単語で複数の意味をもっているケースを学ぶことになる。日本語の例で言えば、「かける」という言葉一つで次のような使い方がある。「ドアに鍵をかける」「電話をかける」「隣の人に声をかける」「スイカに塩をかける」「椅子に腰をかける」「眼鏡をかける」「音楽をかける」「10に5をかける」…。多義語を学ぶことで、解釈や作文の力が増すだけでなく、表現力が高まる。解答・解説をよく読んで、その英文と日本語を見比べ、どんな状況でどんなふうにもその単語が使われているのを分析できるようになる。
- ⑤ 2連立で同音異義語を補充する問題の場合、その単語の知識と発音が重要となる。同音異義語とは発音が同じで意味の異なる語のことである。日本語では例えば、「箸」と「橋」、「牡蠣」と「柿」、「雨」と「飴」などがそうであり、枚挙にいとまがない。解答・解説でしっかり確認し、覚えることで、リスニング、読解に大いに役立つ。言うまでもなく、ここでも、英文と日本語の突合せを忘れないでほしい。
- ⑥ 3連立で共通語を入れる場合も多義語の知識が必要である。どんな単語を、どんな状況で使うと違った意味になるのかを考えてもらいたい。答えを出した後、解答・解説の

和訳をよく読んで、共通語がどのように使われているのか分析してほしい。その共通語の使い方を学ぶことで、表現力がつくだけでなく、読解力も伸ばせる。3つの英文とその和訳の仕方をしっかり覚えることも忘れないで。

- ⑦ **Coffee Break** コーナーがあるので、読んで楽しんでもらいたい。楽しむだけでなく、背景知識として役立ててほしい。小論文や自由英作文にも役立つだろう。

なお、完成した英文を読み上げた音声を用意している。詳しくは、p.006を参照のこと。

目次

はじめに	002
本書の使い方	004
音声のダウンロードと配信について	006
Chapter 1 適語を答える問題	
Section 1 日本語が与えられていて、適語（語句）を選択するパターン	008
Section 2 日本語が与えられていて、適語（語句）を下の語句群から選択するパターン	014
Section 3 日本語が与えられていて、適語（語句）を答えるパターン	018
Section 4 日本語がなく、適語を答えるパターン	023
Section 5 日本語がなく、適語（語句）を選択するパターン	024
Chapter 2 2 連立完成問題	
Section 1 頭文字が与えられているパターン	045
Section 2 同じ意味になる語を答えるパターン	047
Section 3 同じ意味になる語（語句）を選択するパターン	051
Section 4 共通する語を答えるパターン	056
Section 5 同音異義語を答えるパターン	059
Section 6 対話形式で適語（語句）を選択するパターン	061
Chapter 3 3 連立完成問題	
Section 1 3文に共通する語を答えるパターン	065

Section 5

日本語がなく、適語（語句）を選択するパターン

C155

英文の空所にあてはまる語（語句）を選びなさい。

- 1 He studied hard with a () to becoming a teacher of English.
 ① means ② purpose ③ hope ④ view
- 2 We often hear it () that the Japanese people are conservative.
 ① say ② says ③ said ④ saying
- 3 She does not speak English, () less German.
 ① not ② no ③ little ④ much
- 4 Didn't it ever () to them that they would be punished?
 ① enter ② happen ③ occur ④ strike
- 5 Everybody is very eager to know the () of the negotiations.
 ① outbreak ② outcome ③ outlook ④ output
- 6 Nancy was so tired that she () down and slept.
 ① lay ② lied ③ lain ④ laid
- 7 It costs \$35 a year to () to this magazine.
 ① reserve ② subscribe ③ presume ④ restrain
- 8 The people in the colonies were demanding (), that is, the right to rule themselves.
 ① interference ② indifference ③ innocence ④ independence
- 9 I received a letter to the same ().
 ① way ② effect ③ means ④ content
- 10 You should put the medicine bottle out of children's ().
 ① reach ② extent ③ span ④ distance
- 11 () was Hanako's disappointment that she burst into tears.
 ① As ② Such ③ It ④ So
- 12 The criminal () himself up to the police.
 ① gave ② kept ③ made ④ put

アップグレード

as / than 以下の省略

Her father was a successful businessman, and she is just as successful.

「彼女の父親は実業家として成功したが、彼女もまた成功している」

* just as successful (as her father was)

Frozen fish is good, but fresh fish is much better.

「冷凍の魚もおいしいが、とれたての魚の方がもっとうまい」

* much better (than frozen fish is)

61

解答 ① what is more

「新たな経済政策で地場産業が活性化した。その上、多くの新規雇用の創出にもつながった」

② イント

「地場産業の活性化」も「新規雇用の創出」も「新たな経済政策」の効果。② on the contrary は「(述べられたことに強く反対して) それどころか、とんでもない」。③ what is worse は「さらに悪いことに」。④ just in case は「万一の場合に備えて、念のため」という意味。

62

解答 ① are

「聴衆の皆様は開演 15 分前に席に着かれるようお願いします」

② イント

audience は衆多名詞で単数形で複数扱いになる。The audience is ... であれば audience は集合名詞で「聴衆は…」となり、全体としてまとまった一つの集合体とみなされている。

アップグレード

集合名詞と衆多名詞

(1) Her family is a large one. 「彼女の家族は大家族だ」

Her family are all well. 「彼女の家族は皆元気だ」

(2) This class is in the charge of Mr. Yamada. 「このクラスは山田先生の担任だ」

This class are studying English. 「このクラスの皆は英語の勉強している」

* その他 committee 「委員」、jury 「陪審(員)」、police 「警察」も同じように用いる。

63

解答 ② whose

「私の息子は、英文学を専攻していたのだが、(今では) 高校の教師をしている」

③ イント

My son is a high school teacher 「私の息子は高校の教師である」と his major was English literature 「その息子の専攻が英文学であった」という 2 つの文は my son を受けた his のところを whose とすることでつながる。

Section 6

対話形式で適語（語句）を選択するパターン

1

解答 ② did you use it

A「私の辞書をどこかで見なかった？」

B「いや見てないよ。最後に使ったのはいつ？」

● イント

last「最後に」から判断して「最後に使ったのはいつ？」となる。

2

解答 ③ way

A「この列車は下田まで行きますか」

B「はい、行きますよ。下田が終点です」

● イント

go all the way to ... で「(はるばる) …まで行く」という意味。

3

解答 ③ some other

A「私は君と月曜日に会う約束をしたんだけど、その日は行けそうにないよ」

B「わかった。日を改めよう」

● イント

change to some other day で「日を改める」と覚えておく。

4

解答 ① work out

A「すみません、助けてもらえますか。この機械の使い方がわからないんです」

B「かまいませんよ。すぐに行きます」

● イント

work out には「…を解決する、解明する、考え出す」などの意味がある。② work with ... は「…と協力して働く」、④ work at ... は「…に取り組む」という意味。③ work on ... には「…を製作する」「…に取り組む」「…に影響を及ぼす」などの意味がある。

5

解答 ② in mind

A「明後日会って昼食をご一緒できればと思っています」

B「もちろんです。どこにしますか」